市川市　みどりの基本計画
グリーンニュースその9

みんなで考える　みどりづくり

2003年
No 9

第１回 策定委員会が開催されました。

平成 15 年 12 月 19 日「市川市みどりの基本計画第１回策定委員会」が開催されました。策定委員は、第 7 回市民懇談会（報告会）で選出された市民委員の 5 名の方々と関連部長を中心とした 7 名の合計 12 名で構成されます。これまでに開催された市民懇談会や策定班会議（関連担当者会議）において検討された素案をもとに、「市川市みどりの基本計画」の策定へ向け開催されました。第 1 回では、第１章から第 3 章について協議しました。

《策定委員会メンバー》

市民委員（委員長）	浅野義人教授
市民委員（北東部）	大塚功一
市民委員（北西部）	中村一郎
市民委員（中部）	阿部武弘
市民委員（南部）	髙木史人
市川市　建設局	本島　彰
市川市　企画部	永池一秀
市川市　環境清掃部	鈴木　孝男
市川市　都市計画部	山越　均
市川市　道路交通部	木村　博
市川市　教育総務部	谷本　久生
市川市　水と緑の部	中山　千代和

第 1 回策定委員会の内容

○開催日
平成 15 年 12 月 19 日

○開催場所
市川市第 6 委員会室

○議事次第
①開会の言葉
②委員紹介
③委員長選出
④委員長からのあいさつ、本日の予定
⑤第 6 回市民懇談会以降の経過報告
⑥第 1～3 章の説明
⑦質疑応答

《策定委員会の進め方》

第 1 回策定委員会
・委員紹介等
・素案 第１～３章について

↓

第 2 回策定委員会
・素案 第 4～6 章について

↓

第３回策定委員会
・素案 第 7 章について
・これまでの検討のまとめ

《第１回策定委員会の様子》

第１章　計画の策定にあたって
（計画の目的、位置づけ、緑地の体系等）
第２章　緑の現況と課題
（市域の現況、緑の現況、緑の課題等）
第３章　計画の基本方針
（基本理念、将来像、基本方針、目標水準等）

【策定委員から多くのご意見・ご提案をいただきました】

策定委員からの主なご意見	素案への反映
計画の位置づけの中に市民参加とありますが、市民参加というのは「作り方」です。「位置づけ」と「作り方」が一緒になっています。	表現を修正します。
緑地の体系に従って、現在の緑地面積を分けて欲しいです。また、４地区での分類が目標を立てるときに重要になると思います。	４地区ごとの緑地面積割合を調査し、提示します。
各公園の面積などをわかりやすく示すべきでは。例えば外環なら外環でどのくらい緑が増えるかとか、データとしてわかりやすいものを作らなければいけないと思います。	緑地の体系に基づいた内訳表を作成します。
緑の効用ということで、レクリエーションという言葉がいいのか、別な表現があってもよいのではないかと思います。	緑の４系統の表現として「レクリエーション」を用いたいと考えております。
現状について、動植物の貴重種などについて述べることが必要ではないでしょうか。	参考文献名を載せます。
歴史的に緑が減っていった経緯は、どのような比率で変わっていったのかわかるでしょうか。	統計年鑑等の調査結果をできるだけ反映します。
クロマツと砂州というのは密接な関係があるため、「砂州の保全」についてもふれて頂けたらと思います。	クロマツが生育していくための植生基盤条件として、砂州の保全も重要であることを盛り込みます。
緑地の区分ですが、「地域森林計画対象民有林」（108ha）等も計上していただければと思います。	他の緑地との重複面積以外の民有林面積を計上します。
農業振興地域は除くということでしたが、これは地域制緑地間の重複のためですか。	農振地域の目的に合致して一体的に地域を保全していくため、地域全体を緑地としてみなしていきます。
緑のネットワークの中で、「外かん道路」を強く出して欲しいと思います。外かん道路建設に伴って緑地面積が約 17ha 創造できます。これこそ非常に大きい緑のネットワークになります。	外かん道路については、事務局としても外環を緑の軸として位置づけた施策を展開していきます。また、将来における緑地のイメージ、環境保全系統の方針の中で、「外かん道路」の方針について盛り込みます。
今の目標は数字だけになっている。将来目標が達成されたときにどんな状況になるのか、表現の工夫が必要だと思います。	イメージ図を挿入します。
昭和 30 年代ぐらいの自然環境が目標のイメージになるのではないでしょうか。具体的にそれに近づく努力をするということです。昭和 30 年の市川市はどうだったのか、何か資料があれば教えていただきたいと思います。	古い写真の中から計画書に使用できるもの選び具体的に理想とする年代の設定を考えてみます。
将来像が、既に具体的でないと思います。将来像図を説明するような、具体的なものを入れていただきたいと思います。	緑の将来像の見直しを検討し、緑の将来像の次ページに緑地のイメージを掲載します。
将来目標は、いつの時代にそうだったのか、目標とするのはどの時代なのかを表現していただきたいと思います。	統計年鑑等の調査結果をできるだけ反映します。
どのくらいの面積の緑地で、どのくらいの酸素ができるなどが述べられても良いのかと思います。排気ガスが出たり、温暖化したり、そういうものに対しての緑地の整備方針、配置方針があっても良いと思います。	巻末資料に単位当たりのCO_2吸収量、NO_x吸収量の試算データを載せます。
現況について、全部書ききれないとすれば、自然環境課の方で調べたものを参考文献として調べたものがあるということを、載せればよいのではないでしょうか。	参考文献名を載せます。